●4月は母子の健康月間です。

室蘭北ロータリークラブ会報

むろらんだけ 室蘭岳

Rotary

2018～2019年度　国際ロータリーテーマ
BE THE INSPIRATION
「インスピレーションになろう」
2018～2019年度 RI会長　バリー・ラシン

2019年4月23日(火)　第2277回　例会

第2510地区　日本 (DISTRICT 2510 JAPAN)　●会長：菅原　正明　●幹事：小野寺浩二　●編集：クラブ管理運営委員会

本日のプログラム

移動例会「職場訪問」

場所：浄誓寺
スケジュール
12:15　ホテルサンルート室蘭集合
12:30　出発
12:45　セレモニー、会食
14:00　現地出発予定

クラブ管理運営委員会
職業奉仕委員会

※4/30(火)はクラブ指定休会です。
次回例会は5/7(火)となります。

次回の予定プログラム

卓話「平成とロータリアンの私」

日本工学院と職業奉仕
新副工長の紹介

登別RC　会長　石井　憲一 様
クラブ管理運営委員会

次週献立予定　洋食ランチ (チーズハンバーグサラダ添え、ライス、スープ、デザート)

※例会終了後、理事会を開催致します。

出席報告

会員数	49名	出席者数	33名
出席免除者数	2名	欠席者数	16名
出席義務者数	47名	出席率	67.35%

前回例会の報告

第2276回 (4月16日) 例会記録

本日のゲスト

一般社団法人登別国際観光コンベンション協会
専務理事　大野　　薫 様

会長報告

1．斉藤聡会員の入会式を行います（別掲）。

副会長報告

1．2019-2020 年度地区研修・協議会の報告（別掲）。

幹事報告

＊ポリオプラス募金一人100円とワンコインニコニコBOXのご協力をお願い致します。

委員会報告

1．職業奉仕委員会　齊藤委員長より
4/23（火）移動例会について
2．社会奉仕委員会　齊藤委員長より
先週の例会で献血者が 60 名で目標を達成することができました。

ニコニコBOX

藤井徹也 (明日日本武道館でエリッククラプトンのライブを観てきます)
赤崎幸三 (地区研修協議会参加してきました)
菅原正明 (斉藤聡様ご入会ありがとうございます)
岸田理 (来週の移動例会宜しくお願いいたします)
菅原悦子 (創立記念日にあたり)
西尾静枝 (創立記念日にあたり)
川本康裕 (浄誓寺にてサクパルの練習風景を見てきました)
佐藤隆夫 (久しぶりに出席しました)
齊藤俊一 (先週の献血例会皆様のおかげで目標達成しました)
船水尚行 (結婚記念日にあたり)

各種記念日

結婚記念日　西野　義人 会員　4月29日
創立記念日　内池　秀光 会員　4月23日

●例会場　ホテルサンルート室蘭
●例会日　毎週火曜日　12：30　P.M.
●事務所　室蘭市中島町2丁目28-6
●電話　0143-45-6569　●FAX　0143-50-6578
●URL　http://murokita-rc.org/
●E-mail　mur-n.rc@athena.ocn.ne.jp

前回例会のプログラム

卓話「登別市の観光について」

一般社団法人登別国際観光コンベンション協会
専務理事　大野　　薫 様
クラブ管理運営委員会

●プロフィール
昭和50年　登別市役所奉職
平成７年　総務部企画調整室国際交流担当主査
平成19年　保健福祉部後期高齢者医療担当主幹
平成25年　教育委員会教育部長
平成27年　（一社）登別観光協会　事務局長
平成29年　同　専務理事
同年10月、（一社）登別国際観光コンベンション協会へ名称変更

登別市の観光は、ここ数年インバウンドの増加などにより堅調に推移しており、平成２９年度は四半世紀ぶりに４００万人を超えました。延べ宿泊数も1，３１４千人とこれも10年ぶりに１３０万人を超える結果となりました。このうち５１８千人が外国人観光客であり全体の約４０％を占めております。国別では台湾・韓国・中国・香港の順となっており、この４カ国で４４６千人となり外国人観光客の８６％を占めております。

３０年度も、インバウンドを含めて引き続き期待を寄せていたところでありますが、9月の胆振東部地震の影響で沢山のキャンセルが出るなど大きな痛手を被りました。

しかし、国の復興割等の支援策もあり12月頃には、ほぼ平年並みに回復するなど関係者も一息ついているところです。

さて、登別の観光は、これまで多種類の泉質と豊富な湯量に恵まれた温泉と北海道遺産である地獄谷や大湯沼、天然足湯などの自然資源のほか、クマ牧場や登別マリンパークニクス、登別伊達時代村などのテーマパークを中心に展開してまいりましたが、観光を取り巻く環境は、団体旅行から個人旅行の移行、外国人観光客の急激な増加、北海道新幹線の開業、食や体験型観光へのニーズの高まりなど大きく変貌しつつあります。

登別観光協会では、こうした課題を踏まえて平成２８年より地域資源を活かした体験などを取り入れるため関係団体との連携を深めながら全市観光の推進に努めてきました。具体的には、自然豊かな「ふぉれすと鉱山」や貴重な動植物や景観が楽しめる「キウシト湿原」、桜やシャクナゲなどの植物が楽しめる「亀田記念公園」など登別温泉以外の地域資源を活用した観光づくりを進めたいと考えております。

また、これまで観光客誘致に特化していた体制を、文化・スポーツ・ビジネスなどあらゆる団体と協力して、観光という枠に囚われない「登別市へ人を呼ぶ事業」として実施し、市内経済の活性化や雇用の創出に結びつけることが重要と考えています。これを具現化するための事業としてＭＩＣＥの誘致事業に取り組むこととしました。

MICEとは、Meeting（会議・研修・セミナー）、Incentive tour（報奨・招待旅行）、ConventionまたはConference（大会・学会・国際会議）、Exhibition（展示会）の頭文字をとった造語で、ビジネストラベルの一つの形態であり参加者が多いだけでなく、一般の観光旅行に比べ消費額が大きいことから、近年MICEの誘致に力を入れる国や地域が多くなっています。

これらの事業を推進するためには、市内各種団体の協力等も必要なことから、登別観光協会を平成２９年１０月1日より登別国際観光コンベンション協会へ名称変更するとともに、登別商工会議所との連携協定の締結や市内の各種団体の協会への加入を呼びかけています。

私たちは、こうした取り組みを通して年間４００万人訪れる観光客の皆様の消費活動を市内経済の活性化や雇用の創出に繋がるよう登別市や登別商工会議所、関係団体と協力しながら進めていきたいと考えています。

新会員入会式

新会員プロフィール

斉藤　　聡 会員
職業分類：管工事業
1960年2月19日（59歳）江別市出身。
昭和58年、室蘭工業大学金属工学科卒
協業組合ユニオン建設代表取締役
家族構成：妻、母　　趣味：ゴルフ
推薦者：斉藤　崇 会員

次期会長　赤崎　幸三

2019-2020年度ＲＩ第2510地区
地区研修・協議会報告

１．参加者

参加者：赤崎幸三（次期会長）、西野義人（次期幹事）、宮本一章（次期増強）、
上口　喜代志（次期職業奉仕）、猪俣英二（次期社会奉仕）、
椛沢哲也（次期国際）、廣瀬禎（次期青少年奉仕）

欠席者：内池秀光（次期クラブ管理運営）、徳永賢二（次期広報）

２．内容

次期会長・幹事・各委員長が参加し、次期研修リーダー安孫子パストガバナーより説明があり、各分科会にて、次年度に向け準備すること、現在のロータリーの課題や方向性についての説明があった。

特に会員の高齢化、入会者の短期退会、絶対増の減少の課題があった。衛星クラブを立ち上げ、ロータリー本入会前に会費も安く、勉強する気持ちで会を運営しているところがある。その後、本入会し本クラブの会員増加につなげるねらいがある。

また、２００１年に１人１業種制度の廃止、５人あるいは１０％とすることについて、同業種であっても理解ある方の入会を勧める。

ＲＹＬＡの一時休止、ＲＬＩの組織化について説明があった。ＲＬＩは入会間もない方の研修について強化したい狙いがある。

予算の半期予算人数は２，６００人。地区米山記念少額・学友研修費が新設になっている。米山奨学生の交流は、次世代の世界的交流につなげるため、力を入れている。

ロータリーは親睦⇒奉仕の繰り返しが大切であるとあらためて伝えている。あとは、各分科会において、各委員会の課題や注意事項などが説明されていた。

自クラブにおいて、会員増強は非常に大事。ロータアクトなど若い世代からロータリーの活動を伝え、将来の会員につなげる動きをしなければという思いが全体的にあった。ロータリーの理念や価値観をクラブ内で今一度確認し、新しく入会される方に正しく入会の意義を伝えるよう話があった。

買い物客ら快く献血

室蘭北ＲＣ、モルエで呼び掛け

室蘭北ロータリークラブ（菅原正明会長）は9日、室蘭市中島本町のモルエ中島で献血を呼び掛け、買い物客らが快く協力していた。

社会貢献の一環で1973年（昭和48年）に初めて実施。2003年（平成15年）からは毎年行っている。今年は会場をホテルサンルート室蘭からモルエに変更した。

北海道赤十字血液センター苫小牧出張所の移動献血車がモルエの駐車場で対応。市民は体調の確認を受けた後、採血されていた。

同センターの高木雅敏献血係長は「献血の協力が安定しない年度初めに協力していただき、感謝しています」と話していた。

同クラブの齊藤俊一社会奉仕委員長は「モルエは市民が多く集まり、協力者数も多い。献血は今後も継続していく」と効果を感じていた。

（池田勇人）

献血に協力する市民